

雲仙岳災害記念館が島原市に開館

<下司 信夫⁽¹⁾・栗原 新⁽¹⁾・吉田 大祐⁽²⁾>

去る7月1日に、長崎県島原市平成町に雲仙岳災害記念館がオープンした。記念館は、火砕流・土石流によって、その流域に壊滅的な被害を被った水無川の河口近くに立地しており、雲仙火山の噴火災害を後世に伝えるとともに火山のなりたちや防災事業について学習する格好の施設である。雲仙火山の猛威と様々な研究例、防災事業の紹介などを平易な言葉遣いと印象的な展示方法でまとめられている。

1. 2002年7月1日、長崎県島原市にオープンした雲仙岳災害記念館。



2. 展示室の様子。写真や模型、実物標本をふんだんに使うなど、視覚的に工夫された展示が多く取り入れられ、来館者が自分で操作して試みることができる展示も多く、好評を博している。



3. 焼き尽くされた風景。平成噴火の映像シアターを出ると、火砕流被災地の状況を復元した大掛かりなジオラマが広がる。ジオラマ内には火砕流によって破壊された品々を被災地から回収し展示している。奥に見えるジープの運転席に座ると、自衛隊によって火砕流被災地で撮影された映像を見ることができる。



4. 平成噴火に関する展示。溶岩ドームの成長過程をたくさんの地形模型と写真で紹介している。観測班や自衛隊による溶岩ドームの観察日誌のコピーなどが展示されており、噴火観測のようすがわかりやすく展示されている。

5. 産総研が中心となって行っている雲仙科学掘削に関する展示スペース。ボーリングコアの層序解析など、産総研による研究の成果が大きく取り上げられている。



6. 雲仙科学掘削によって得られたボーリングコア試料。これらボーリングコア試料の岩相の識別やそれに基づく火山噴火活動史の復元なども、産総研による研究成果である。産総研によるボーリングコア試料の解析作業は現在も進められており、雲仙火山の活動史に関する新しい知見が次々と得られている。



7. 開館当日の7月1日は平日で、またあいにくの雨模様であったが、多くの来館者にぎわっていた。



8. 開館の様子は多くの報道機関によって報道された。テレビインタビューに応える来館者のおばあちゃん。